

# 釧路湿原自然再生協議会 ニュースレター NewsLetter

No.28

令和4年4月7日

編集・発行：釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

令和4年3月16日(水)「第28回 釧路湿原自然再生協議会」が釧路市観光国際交流センターで開催されました。

## 開催概要

協議会には、50名（個人29名、14団体15名、オブザーバー1団体1名、関係行政機関6機関6名）が出席しました。（コロナウイルス感染拡大状況により一般の方の傍聴は中止させていただきました。）

今回はオンライン開催と併用して行われ、最初に事務局から第10期（後期）協議会構成員の公募結果について報告を行いました。その後、中村会長の進行のもと、「第10期(前期)協議会の収支報告」「第27回協議会以降の小委員会開催報告」などが行われ、内容を協議しました。

## 自然再生協議会とは

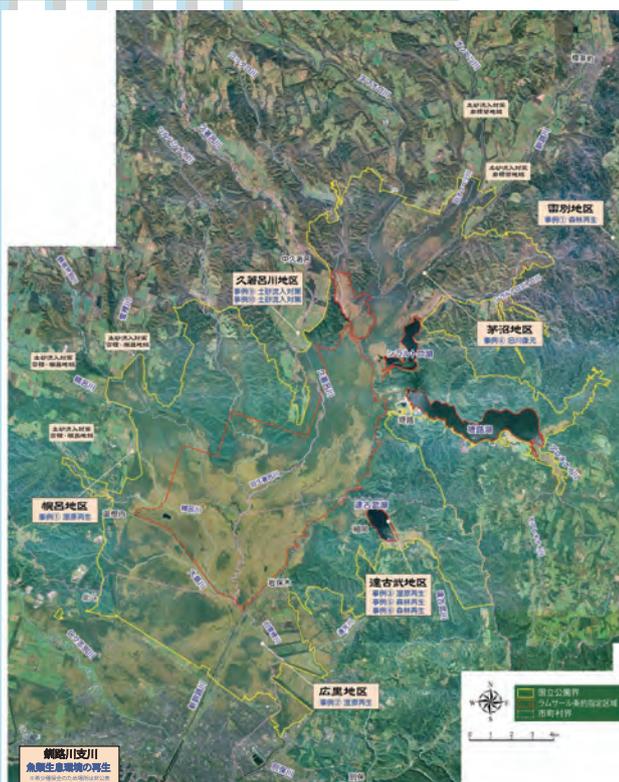


## 【第28回協議会 出席状況】

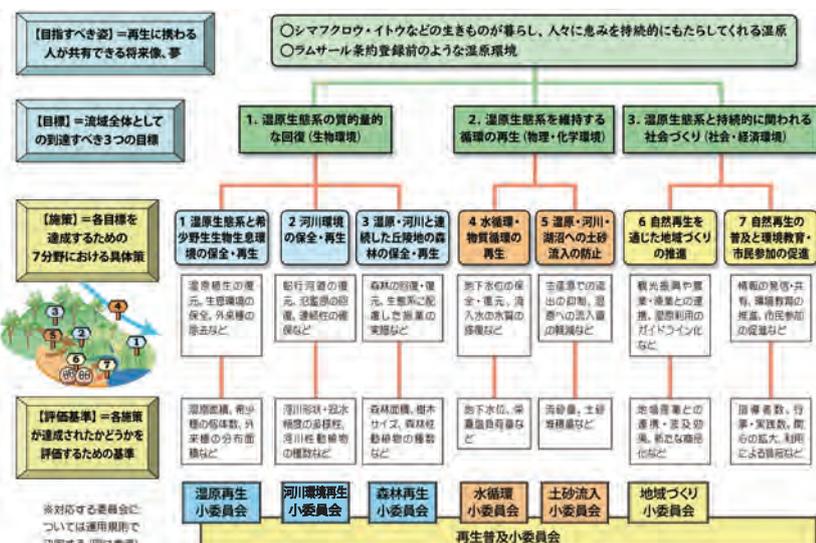
構成員	個人	29 / 77名
	団体	14 / 48団体
	オブザーバー	1 / 13団体
	関係行政機関	6 / 10機関
	合計	50 / 148名

釧路湿原自然再生協議会は、「釧路湿原の河川環境保全に関する提言」を踏まえて、自然再生事業を今後さらに効果的に実施するために、地元団体や行政機関・自然保護団体の呼びかけにより2003年11月に発足しました。具体的な事業について報告・議論する7つの小委員会を設置し、それぞれで検討を行っています。

## 自然再生事業の取り組み



釧路湿原の保全と再生の目標を達成するため、下図のように具体的な施策を7つの分野に分けて実施しています。それぞれの施策に対応する小委員会を設置して検討を進めています。



## 第27回協議会以降の小委員会開催報告

第10期(前期)釧路湿原自然再生協議会の收支報告、

第27回協議会以降の各小委員会の開催報告を行い、協議会全体としての討議が行われました。

### 湿原再生小委員会

#### ■幌呂地区自然再生事業について

今年度は引き続き事業実施箇所の地盤切り下げと排水路の埋戻しを行いました。既往の事業箇所では、湿原植生は経年的に増加し、今年度は事業実施箇所です。タンチョウの営巣も確認されています。今後も事業を継続して実施します。



▲タンチョウの営巣を確認

#### ■達古武湖自然再生事業について

今年度も引き続きヒシの刈り取りや水質等の調査を行いました。ドローンで撮影した画像からヒシ以外の浮葉植物の面積が維持されていることを確認しました。



ネムロコウホネ ヒツグサ

▲ヒシ以外の浮葉植物

#### ■広里地区自然再生事業について

広里地区での自然再生事業の成果として、これまでの検討結果についてとりまとめました。

とりまとめた結果については、環境省HP「湿原データセンター」で公表しました。

このような意見交換が行われました。

会長 委員 事務局

- タンチョウが営巣した場所は、掘削後何年経過した場所ですか。

掘削後5年経過し、周辺が冠水している箇所で営巣を確認しています。
- ツルハシナイ川の置土については今後どのような形にしていくのでしょうか。

現時点で沈下が続いているため、沈下が落ち着いてから鶴居村と協議して、今後の方向性を整理していきたいと考えています。
- 湿原は植物が非常に特化しており、一定の種の組み合わせでできています。湿原内部の種構成にどこまで近づいたかを評価する必要がありますか。

茅沼地区において、林床植生の回復状況について群落組成調査を実施しており、幌呂地区についても同様の観点で調査方法を検討していきたいと考えています。
- 埋め戻し対象排水路が埋め戻し対象外の排水路に接続している部分について、水が流出しないための対策は行いますか。

埋め戻し対象排水路は、排水路端部のせき上げを実施することを検討しています。

### 河川環境再生小委員会

#### ■茅沼地区旧川復元事業について

ハンノキの樹皮の一部を剥ぎ取って立ち枯れさせることで、湿原植生の回復を促す試験を令和元年度から行っています。樹皮を剥ぎ取ったハンノキは厳しい生育環境に耐えようとしている様子が確認されました。今後もモニタリングを続けていく予定です。



▲ハンノキの枯死状況

#### ■釧路川支川魚類生息環境の再生実施計画について

今年度は魚道の新規施工と合わせて、遡上の障害となる護床連節ブロックの改良工事を試験的に実施しました。

産卵調査ではサケやサクラマス産卵が過密な状態となっている区間がありますが、魚道整備を行うことで上流に分布が広がると考えています。



▲魚道整備の様子

#### ■ヌマオロ地区旧川復元事業について

令和元年度から旧川復元に向けた工事に着手し、令和3年度は工事用道路の施工、左岸側旧川の掘削工事、本川への仮橋設置を実施しています。

事業によって影響を受ける希少植物は移植を行い、移植先での生育状況を確認しています。(続く⇒)

このような意見交換が行われました。

会長 委員 事務局

- 魚道の設置は概ね完了しているのでしょうか。
- 2基について現在施工中ですが、来年度の早いうちにはほぼ完成すると思います。また、連節ブロックが敷設されている区間があり、イトウの遡上障害となるため、部分的に改良する工事を昨年11月に行っています。
- 施工した上流の区間にイトウは遡上しているのでしょうか。
- 連節ブロックの影響で一番上まではいけていませんが、その下流付近では2019年から産卵を確認しています。

土砂流入小委員会

■河道の安定化対策について

河道の拡幅や帯工を改良することで、近年は土砂生産量が抑制されています。河道安定化対策を行わなかった場合、河床低下に伴う河岸侵食による被害が発生する恐れがあったことから、対策を実施したことによる治水面に対する効果が示されました。今後も工事とモニタリングを合わせて実施していきます。

■河川沿いの土砂調整地について

河川沿いの土砂調整地は令和2年3月までに河道拡幅と管理用道路の整備が完了しました。また、効果量を把握するため横断測量と河床材料調査を実施しています。令和3年以降も対策効果を検証するため、引き続きモニタリングを実施します。



▲河川沿いの土砂調整地（整備前：H28. 9月）



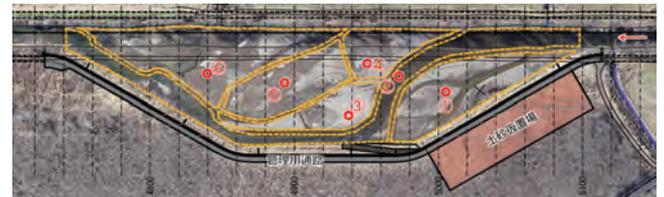
▲河川沿いの土砂調整地（整備後：R3. 8月）

■排水路合流部沈砂池について

現在は標茶町、鶴居村、農業団体が管理主体となって施設管理やモニタリングを行っています。今後も土砂上げの実施や堆積状況を確認していきます。

■湿原流入部土砂調整地について

11月に比較的大きい規模の出水があり、浮遊砂量の結果から、上流から流入した土砂のうち約4割が土砂調整地に堆積したと考えられます。今後もモニタリング調査を継続していきます。



▲河床材料調査位置

このような意見交換が行われました。

会長 委員 事務局

- 調整地に堆積した土砂は将来的にどうするのでしょうか。
- 土質が粗粒土砂であるため、堤防天端の敷砂利などに使用できないか今後検証していきたいと考えています。

森林再生小委員会

■雷別地区自然再生事業について

ミズナラやハルニレ等4種類の樹種を合計400本植栽しました。ノウサギ等の食害対策として保護管で覆いました。樹木は順調に生育しており、来年度も引き続き、植栽とあわせて生育状況の調査を行う予定です。



■達古武地域自然再生事業について

植栽した苗木は順調に成長していますが、稚樹や林床植物のエゾシカによる影響は昨年よりも強くなっている傾向にあります。

達古武湖上流部では、特定外来生物のウチダザリガニが確認されました。隣接する場所では在来種のニホンザリガニが確認されています。

また、環境学習プログラムとして、市民や学校向けのイベントも実施しました。



▲環境学習プログラムの実施状況

このような意見交換が行われました。

- ニホンザリガニとウチダザリガニの生息地が近接していますが、他のザリガニに伝染する病気の心配もあるので、調査道具等の消毒を行った方が良いと思います。また、ニホンザリガニの生息域にウチダザリガニが侵入しないような対策を検討すると良いと思います。

- 調査地点の消毒対応と生息地保全の方法について検討したいと思います。

会長 委員 事務局

水循環小委員会

気候変動の兆候を確認するために、気温、流量などの気象観測データの変化について分析しました。気温の上昇傾向、洪水の増加傾向、釧路湿原への土砂流入量の増加が確認されています。次年度以降、気候変動の予測と湿原の健全性評価を行い検討を進めていく予定です。検討にあたり、他の小委員会とも連携して自然再生事業への展開につなげていきたいと考えています。また、これまでの検討結果が広く活用されるように「水・物質循環に関わる技術資料」を作成しました。



▲平成30年3月出水の様子（標茶町市街地）



▲令和2年3月出水の様子（開運橋）

-  気候変動によってイワナなどの冷水魚への影響が大きいと思います。支川の上流部の水温について測定は可能でしょうか。
-  過去のデータの有無を含めて確認して、可能かどうか検討したいと思います。
-  自然再生を行うことで、様々な意味で気候変動適応策としての相乗効果があるのではないかと思います。これまでそのような面から自然再生事業は検討してこなかったのですが、この小委員会の中で気候変動適応策を検討するのもとても良いことです。緩和策と適応策の両方について自然再生事業が貢献できる科学的根拠があると良いです。

## 再生普及小委員会

質疑はありませんでした。

釧路湿原再生事業に関する情報発信として、釧路市中央図書館へ資料を収蔵しました。令和4年2月から一般向けの配架も開始しています。また、湿原への興味と理解を促す企画として、座学とフィールド学習を組み合わせた市民講座を開催し、開催状況を動画で紹介しました。また、湿原学習のための学校支援WGを設置し、学校と連携した取組みや研修講座、授業支援を行っています。



▲釧路市中央図書館への資料収蔵



①座学 8/21 ▲市民講座の開催（座学）



②フィールド（湿原）10/10 ▲市民講座の開催（フィールド）



▲釧路市立中央小学校 中間発表会

## その他

### 中村会長より、新ワーキンググループの活動報告がありました。

令和2年度に行われた協議会で、民地で行われている森林伐採などの開発に関する情報を事前に把握する方法が難しいという話があり、この問題を議論するためのワーキンググループを立ち上げました。

釧路湿原・釧路川流域の生物多様性を保全していくために、この新ワーキンググループの名称は「生態系評価ワーキンググループ」にしたいと考えており、湿地や森林、川などの生態系について、どこを保全し、どこを再生すべきかについて現在検討を進めています。

現在、釧路湿原周辺ではソーラーパネルの建設が進められており、そこがキタサンショウウオにとって貴重な生息場所だったというケースもあります。今回、釧路湿原周辺のキタサンショウウオ生息適地マップを作成しており、今後、関係機関と連携して保護保全に活用していく方向で検討しています。

生態系評価ワーキングが重要となれば、小委員会に上げることも考えていますが、小委員会をまとめていく方向も考えられるので、今のところは不定期に開催するワーキングとして続けていくこととします。

### ■第27回協議会以降に開催された小委員会の開催概要

小委員会名	開催日時	議 事
第24回 湿原再生 小委員会	R4.1.25(火) 13:30~15:30	1. 幌呂地区自然再生事業について 2. 広里地区自然再生事業について 3. 達古武湖自然再生事業について
第25回 河川環境再生 小委員会	R3.12.21(火) 13:30~15:30	1. 茅沼地区旧川復元事業について 2. ヌマオロ地区旧川復元事業について 3. 釧路川支川魚類生息環境の再生実施計画について
第26回 土砂流入 小委員会	R4.1.27(木) 13:30~15:30	1. 久著呂川における土砂流入対策について 2. 今後の予定
第21回 森林再生 小委員会	R3.11.12(金) 13:30~15:00	1. 雷別地区自然再生事業について 2. 達古武地域自然再生事業について
第20回 水循環 小委員会	R4.1.11(火) 13:30~15:30	1. 水循環小委員会の検討経緯と今後の方向性 2. 水・物質循環技術資料 3. 近年の水文観測データと今後の展開

小委員会名	開催日時	議 事
第11回 地域づくり 小委員会	【予定】 R4.3.22(火) 13:30~15:30	1. 委員からの話題提供 2. 地域づくり小委員会取り組み状況報告
第37回 再生普及 小委員会	R3.2.4(金) 14:00~15:30	1. 再生普及小委員会の活動報告 2. 湿原の保全や再生に関わる情報発信の拡充について

### ～ 委員を募集しています ～

- 毎年10月中旬～11月初旬に釧路湿原自然再生協議会の委員を募集しています。
- どなたでも参加でき、興味のある小委員会に参加していただけます。

■資料の公開方法 委員会で配布された資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。  
ホームページアドレス <http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend0000003ppq.html>

■ご意見募集 釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。  
電話・FAXにて事務局までご連絡ください。

